

第4回西予市総合計画審議会 会議要旨

1 開催日時 平成27年10月15日（木） 18時30分～19時30分

2 開催場所 西予市役所5階大会議室

3 出席者 【委員】

坂本会長、樋口副会長、井上照代委員、宇都宮とみ子委員、上原委員、小野委員、柚原委員、佐藤委員、武本委員、今崎委員、清家委員、藤田委員、三好委員、宇都宮美由委員、岡崎委員、菊池委員、渡邊委員

【行政】

大平企画財務部長、藤井総合政策課長、総合政策課職員

4 議 事

(1) 基本計画案について

(2) 答申案について

(3) その他

(1) 基本計画案について

基本計画について、第3回総合計画審議会以降に修正等を行った箇所について、事務局から説明。

会 長：最終審議会となるため、基本計画等すべてにおいてご了承いただく予定としております。

基本計画等の内容について、内容を厳密に確認していただきたい。今後10年間の計画として漏れがないのか、何を優先的に取り組まないといけないのかというところをしっかりと確認していただきたい。

委 員：「商業」では、旧町単位で競争するとしているが、市外から来る人に対しては、旧町単位でバラバラにするのではなく、西予市としてまとめて集中して行うほうがいいのではないか。

会 長：専門部会では、各旧町のいいものをそこに行ってもらって買ってもらうことも重要で、中心部で集めて販売すると中心部にしか人が行かず、周辺部へ人が流れないのではないかという意見があった。

西予市外の目線から見ると、一か所で買えることは必要。表現の仕方を再検討する。

事務局で再度、基本計画について、精査する。事務局で修正させていただく。

修正等について、会長一任にさせていただいてよろしいか。

委員：全員承認

(2) 答申案について

答申案について、事務局から説明。

会長：答申案の内容について、文面、意味、文字をかなり事務局と検討してきた。これを審議会として市長に答申したいということで文案を作成した。文中には答申にあたっては、「構成員が必ずしも行政内部に十分に精通しているわけではない」という表現を入れている。これは当然ではあるが、これを行政は加味して、しっかり総合計画を策定して欲しいという想いを入れている。この答申は審議会で出来るかぎり審議したものを提示したつもりだが、おそらく完璧なものではない。あとはこれを精査して、しっかり実効性のあるものにして欲しい。これを要望することとしている。

この文案について、ご意見はありませんか。

委員：構成員というのは、審議会委員のことなのか。

会長：審議会委員のことである。

委員：「精通しているわけではない」から「提示にとどめています。」というつながりが悪い。次のとおり変更してはどうか？

「計画の具体的な提示は、基本理念、基本構想、基本戦略の範囲に留めています。」という表現のほうがいいと思った。

会長：これについて、事務局いかがか。

事務局：ご指摘いただいた内容に変更させていただく。

会長：この内容で答申させていただいてよろしいでしょうか。

委員：全員承認

(3) その他

なし

事務局：本日が最後の審議会となりました。終わりにあたりまして、会長・副会長からごあいさついただきます。

会長：3月からご審議いただき、皆様の熱心なご意見をいただいてきていいものが出来上がったと私自身思っております。基本計画書の書き方は斬新的であり、他の自治体ではこのような形式で取りまとめていない。この答申内容を突き詰めて、職員で実施計画を策定していくと思う。

早く、行政内部の担当部署に内容を説明して計画を実行に移してもらわなければいけない。そういったこともあって、答申後、一気に次のステップにかかっていく

と思う。私自身もこれから関わっていくと思うが、審議会の委員の皆様もこれで終わったわけではない。計画をこれから策定し、実行していくのは市の職員ではあるが、市民が関わってくる。これから計画が実行されているのかどうか、3年に1回見直しもしていかなければならず、今後ご意見をいただきたい。

市長に対して、しっかり実効性のあるものを策定してほしいというのが、この答申になると思う。長い期間、素晴らしいご意見をいただきまして、ありがとうございました。これが終わりではなく今後ともよろしく願いいたします。

副会長：この審議会ではたくさんのテーマがあり、自分の専門分野以外のことでも勉強をさせていただいた。今後、総合計画がどのように策定され、どのように実行されていくか、成り行きを見せていただき、西予市がこの危機感から脱却できるかどうか。これが大事なことだと思う。人口減少に関しては、ニュース等を見て、様々な自治体が住居を無償で提供したりして、自治体が努力をしている。それに対抗できるように市役所の職員の方には頑張ってもらいたいし、私たち市民も協力していかなければいけない。

この計画が今後、具体的な事業となると思うが、本当にこの内容に即したものになるのか、10年後結果が出るまでに何度も見直しを行い、違う方向に向いていないのか、このままでいいのかといった検討も大事だと思うので、これについてどのように行っていくのかを示していただきたい。

審議会はこれで終了しますが、総合計画の見直し等でお会い出来たらいいと思います。ありがとうございました。

事務局（大平企画財務部長）

総合計画審議会の取りまとめにあたりまして、ご尽力いただきました会長、副会長、果敢なご議論をいただきご活躍いただきました審議委員の皆様、御礼申し上げます。

半年前の第1回目の審議会でもそ者だからこそ言えると思いますが、当市はなかなか本音を言わない風土があるということで、意見を言わない人は必要ありませんと言わせていただいた。あえて失礼を承知で言わせていただいた。その後の審議や部会での議論でも皆様にきつい言い方をさせていただいた。本音を言わせたいがため、これは意図的にやらせていただいていた。そういう失礼をお詫びします。結果、今回、大変よい答申を取りまとめていただき、重ねて御礼申し上げます。

会長からの言葉にもあったように、今回、他の自治体には例のないような、このような形式で取りまとめ方をさせていただいた。これはひとえに市の職員の企画立案能力が乏しいという実態がある。今回は事業者に頼らず、政策立案を作る過程を勉強してもらうことをプロセスの中に入れたためである。まず原因は何なのか。その原因は広がりはないのか、その他の問題と関係性はないのか。一つの課題に対

して、一つの政策を投じるという予算は西予市にはない。人も割り当てられない。ということは、一つの政策で複数の課題に解決したり良い影響を与えたりしていかないといけない。今回はそういう趣旨も含めて複数の効果、政策が連鎖しながらよい化学反応を起こしていけるようなものにしていただいたと思っている。

答申については、審議員が必ずしも行政内部に精通していないということになっているが、内部で精査させていただくので、行政側にバトンタッチをしていただきたいというふうに思っている。

市長は4文字熟語、慣用句が好きであることから、答申の中身で四字熟語を使わせていただいた。これは審議会からの市長に対して非常に強いメッセージを送る意味が込められている。特に「守株待兎」（しゅしゅたいと）という言葉を入れさせていただいた。これは、中国の戦国時代の思想家の韓非（かんぴ）が作ったとされる「韓非子」（かんぴし）の逸話が基になっている。木こりが株を守っていたら、その道中に兎がやってきて、株にあたって死んでしまい、それで狩りをせずに儲けたことから次の日も同じようなことをしたがうまくいかず、笑われたという話だが、こういう考え方はダメだということ。残念ながら西予市も棚から牡丹餅のような発想をされる方がいるが、前にうまくいった棚から牡丹餅的な発想を捨てよということで、新しいことにとにかく挑んでいけという意味も込めて、ここでは使わせていただいている。

最後に、改めて、長期に渡り活躍していただいた委員の皆様方に御礼申し上げ、今度は一市民に戻っていただき、外部からこれがうまくいくのかという観点で見ていただくという立場で、西予市の行く末を見守っていただきたい。本当に、ありがとうございました。